

福岡便教会だより

第十二号 平成二十五年七月五日発行

第十二回 福岡便教会・研修会の概要

六月十六日(月)午前八時三十分～十二時、福岡市立城南小学校(早良区)において、「整理整頓」をテーマに第十二回定例研修会を開催しました。

参加者は、教育関係者六十二名、小・中学生二十九名(城南小十八名、城南中十一名)、保護者と一般参加二十四名、合計百十五名でした。

今回、福岡便教会の世話人でもある

赤司校長先生の学校が会場となり、以前に二度掃除に学ぶ会を開催されていまして、周到な事前準備をしていただきました。また、参加者から、「いつも感動することとは、小中学生が一所懸命トイレ掃除をする姿です。その笑顔がまたいい。『ありがとう』ございます」もたくさん耳にしました。とのコメントをいただき、充実した研修会になったと思います。

第十二回研修会のテーマ

「五S運動(特に整理整頓)で校風がよくなる」

この五S運動は、多くの企業等が社風を向上させるために熱心に取り組んでいます。学校でも五S運動の中でも特に「整理整頓」を意識してトイレ掃除に取り組み、校風をよくしていくってほしいと願っています。

鍵山秀三郎先生の言葉を次に紹介します。

「五Sのほんとうの意味」 鍵山秀三郎著 亀井民治編
ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる P.H.P.研究所より
整理…要るものと要らないものを分別し、要らないものは捨て要るものは活かして使うこと。
整頓…必要なものをいつでも誰でも取り出せ、常に使える状態にすること。



る状態にすること。

そのためには、置き場所の決定と表示(見出し)を明確にすること。

整理・整頓を徹底すると、仕事の効率と能率が上がってきます。

清掃…自分の手足を使って行動すること。

清掃を徹底すると仕事の質が上がります。

清潔…整理・整頓・清掃が、きちんとできた状態を維持していくこと。

そのうえで、汚さない仕組み、乱れない仕組みにすること。そうすると工夫改善能力が身につくようになります。

整頓…整理・整頓・清掃・清潔を指示や命令、規則でやったり、当番でやったりするのはなく、習慣として身につけること。躰が定着すると社風がよくなります。

実践発表 「立つ鳥運動の実践」

福岡市立有田小学校 教諭 堂道 真順美

一、立つ鳥運動の目的

私たちは、三つの目的を持って計画を立てました。
① 立つ鳥運動を通してリーダーを育てよりよい人間関係を築くこと、これはリーダーシップを身に付けるだけでなく、リーダーを支えるフォローアップも身に付けたいと考えました。

② お世話になった学校に感謝の気持ちを伝えること

③ 学校の伝統を引き継ぐ気持ちを育てること

本校では六年生が毎朝校門付近を掃除し、あいさつ運動をしています。この立つ鳥運動も六年生の伝統行事で、五年目になります。

二、立つ鳥運動の流れ

開会行事 大西理事のあいさつ



立つ鳥運動を実施するにあたり、児童の実行委員会を立ち上げ、次の取り組みをしました。

① 立つ鳥運動の意義・目標の設定

何のためにこの取り組みをするのか実行委員会で話し合いました。「学校にお世話になった感謝の気持ちを伝えるため」、「先輩がやってきたトイレ掃除の伝統を引き継ぐため」などの意見がでました。

そこで活動を報告する「感謝の気持ちをこめて」と題した新聞を作りました。

② 福岡便教会への依頼

実行委員会では、学校のトイレの便器や掃除道具数を確認して、福岡便教会に指導の依頼をしました。

③ 当日に向けた準備・新聞発行

一人一便器の割り当てや掃除道具の数の確認。活動の意義や報告、リーダー研修会への呼びかけのための新聞を作成して、六年生全員と全職員に配布しました。

④ リーダー研修会

福岡便教会の方を招いて前週の土曜日に行いました。これには実行委員の子どもの他に希望した子どもと保護者も参加しました。道具の使い方やリーダーとしての心構えについて学びました。

⑤ 立つ鳥運動の準備

掃除道具やスケジュールの最終確認をしました。

⑥ 立つ鳥運動当日

開会行事(実行委員長の決意表明、校長先生のあいさつ、福岡便教会の方の掃除の意義説明など)

掃除実習の指導

「うーん臭い」と悲鳴を上げて逃げ腰の子どもがいましたが、リーダーは「ちょっと見てらん」と、便器の奥まで手を突っ込んで



堂道先生の笑顔の実践発表

やって見せると、他の子もまねて、床に膝をつけ、便器に顔を近づけて掃除するようになりました。掃除の様子を四・五年生が見に来たので、六年生はとも得意げでした。

感想文 「昨日まで掃除をしたくないー」と思っていました。去年の六年生の立つ鳥運動で便器の中に手を入れて見るのを見ていたので、『すごい自分もこんな六年生になりたいな』と思う気持ちと『汚いし便器に手を入れるなんて...』という気持ちもありました。今日トイレの前にいろんな掃除道具が準備され、意外と楽しそうに見えたので、『六年間ありがとう』の感謝の気持ちを込めて磨いているうちに自然と手を床につけて磨いていました。私たちの姿を四・五年生が見ながらメモをとっているのがうれしかったです。

⑦ 思いをつなぐ活動

・当日掃除を見に来てくれた四年生の担任が国語の学習内容に「インタビュ」を設けてくれました。実行委員に「立つ鳥運動でトイレ掃除をしたわけは？」「便器に手を入れたときの気持ちは？」などの質問に一生懸命答えていました。

・貴重な経験をしたときの真つすぐな思いをいつでも見返せるようにと文集を作成しました
終りに

たくさんさんの支えがあつてこの立つ鳥運動が充実したものになりました。一つ目は、この五年間支えてくださった福岡便教会の方々の支えです。二つ目は、これまでつないでこられた六年生の担任の先生の途絶えさせてはならないという思いです。

三つ目は、本校の校長先生をはじめ技術吏員の先生やみんなの先生方の理解と協力です。

研修会後の感想文の紹介

研修会の成果や課題を明らかにし、今後の改善に役立てたいと考え、感想文を書いてもらいました。

☆印は子ども、◎印は保護者と一般、○印は教師です。

整理整頓について

☆(中1)不安でしたが親切な方ばかりでアドバイスをもらって楽しくできました。心もきれいになったと思います。整理整頓は出したら戻すことに気をつけてしました。日常生活でも心がけたいと思います。

◎G班は人数が多かったのですが、使う道具を出すタイミングと使い終わった道具を片付ける手際がよくスムーズにいつていました。リーダー、サブリーダーの指示が的確で流石だと思いました。

○(リーダー)次の作業が効率よくできるように道具や人の配置を工夫していくことが課題と考えました。また、次の人が整理された用具をすぐ使えるように工夫する。また片付けやすい工夫をしていくことが必要だと実感しました。

○他の先生から「やってみると楽しくなるよ」と聞いて半信半疑でしたが本当に楽しかったです。便器に顔を近づけて洗っているうちに、あそこもここもと普段なら気づきもしない所の汚れが気になるようになりました。やりながら自分の性格？傾向？に気づけたことも面白い発見でした。結構道具をとつかえひつかえて周りにアイテムが散乱している。頑固な汚れがなかなか取れないと違うところに目移りしてそつちに取りかかる。後十分といわれても時間の用途が立たないなど。子どもには簡単に「整頓！」とか「ここはまだ終わってないよー」「計画的に！」とか言うのに。それってその子なりのやり方だったり工夫したりしていたんだと知ることがで



サブリーダーの一所懸命の姿

きました。

子どもたちに、あーしなさい、こーしなさいの掃除指導ではなく、工夫してきれいにすることの心地よさを伝える指導をしていきたいと思いました。

○家庭でも職場でも課題です。とりあえず置いてしま

って、気がつけばゴミの山みたになつていま



絶対にカビカにするゾ

○「無心になつてやっている自分」と「日頃あれこれごちゃごちゃ考えて、

整理のつかないまま一日を終えるという仕事をしている自分とはどろろが違っているのか振り返ることができました。整理整頓は心の整理整頓であつたように思います。

掃除後の気持ちの変化について

☆(小5)あんまりよごれていないと思つたけど、掃除してみると黒い水やほりがいつぱい取れてびっくりした。リーダーに色々教えてもらったのですみからすみまでいいねにできた。

☆(小2)はじめはかんたんそうだったけど、はじめるとほりやごみが、たくさんついていたので、むずかかったです。おかあさんやおにいさんにおしえてあげたいです。

☆(小6)やる前は学校のトイレをそうじすることにいていこうがあつたけれど、やってみたら終わつたあとの達成感やきれいになつていく気持ちよさが分かつた気がした。また、できるときがあれば参加したい。

☆(中2)普段自分がトイレを使うとき、汚くても何も

感じないけど、掃除をしている人の身になるときれいに使ってほしいと思いました。そして、自分もトイレをきれいに使って、感謝していききたいです。

◎この会のすばらしいところは、目的を達成するために人を動かすにはどうすればよいかというエッセンスがあるということだと思いました。リーダー、サブリーダーの適切な指示のお蔭で大変気持ちよく掃除させていただきました。

◎洋式便器の蓋をはずして磨くなどここまで徹底したことはありません。今後自宅の掃除はもちろん整理整頓も楽に感じると思います。きれいになった後の気持ちよさは格別です。

子どもも大人もひとすべに 無の世界です



◎一所懸命に便器を磨き、きれいになると気分もすっきりし、とても清々しい気持ちになりました。また、学校での態度が悪いと言われている我が子の頑張っている姿、真剣な姿も見ることができてとても嬉しかったです。自分の心を見つめ直すいい機会でした。

◎便教会の方が素手素足で取り組む姿に、自分はいけないうえ、気持ちの改めなれどと思ひ、ゴム手袋をしていたのですが、どうせ手も洗えばきれいになるのだと思つて、手袋をはずして夢中でしました。

◎子どもをどのように褒めたら、掃除をするようになるかリーダーの言葉を聞いて参考になりました。嫌いなトイレ掃除もピカピカに磨くと心も輝く気がします。

◎子どもは初め恐る恐るでしたが、時間が経つにつれてどんどん頑張つていく姿が見られてうれしかったです。家庭でも恐れず子どもにトイレ掃除をまかせてみたい。

◎(筑豊掃除に学ぶ会)ぜひわが筑豊の飯塚市教委とも

コラボして、お互いに盛り上がっていききたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひします。

◎初めて参加しました。大便器の中の水抜きや三角折便器の拭き方などを覚えることができました。また、道具の準備や片付けなど合理的な動きも分かり、清々しい気持ちで終えることができました。リーダー、サブリーダーの謙虚な姿で、みんなの意欲を引き上げる様子を学ぶことができました。

◎参加するかしまいかモヤモヤした気持ちがありましたが、参加してすっきりしました。何かモノを作っているときの心の状態と同じであると今回も思ひました。作品に向かっているときの黙々とした無の世界に入っている時間をとつても貴重に思ひました。

◎今日は自ら「心を磨く」体験をし、子どもたちが「心が磨かれた」と話していたことが本当だったんだと実感することができました。やはり見るだけよりも自ら身を動かして感じるこの方がずっと楽しいと感じました。教育現場や日常生活での活用について

☆(中)リーダーから教わつて和式の便器を新品みたいにししました。すごく気持ちがよかったです。学校で先輩や仲間へ伝えて学校をピカピカにしたいです。

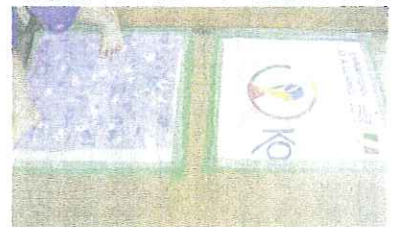
☆(中)便教会のみなさんのアドバイスで、苦戦していた便器が歯ブラシやスポンジなどを使って、ピカピカで真っ白な雪のような便器になりました。中学校の掃除時間十五分と短いですが、用具も少なくスポンジやたわしもありません。でも、学んだことを活かして便器や床、壁をそして自分の心も磨いてピカピカにしたいです。



きつと心も磨かれています

◎自己流でやる掃除はたくさん洗剤と水を使い、無駄が多か

足拭きマットはテープで固定している



つたと思ひます。限られた水を大切に使い、道具を上手に使うことなどすごく勉強になりました。家の掃除にも活かしていけたらいいと感じました。

◎有田小学校では立つ鳥運動として取り組んでおり、参加前は「また新しいこと(気づき)を一つ学ぼう」という気持ちで来ました。今日は、出入

り口に足拭きバスタオルが動かないように養生テープで止めること、洋式便座の汚れやすい所の見つけ方、汚れ具合にあわせた道具の指示が子どもものやる気高め、道具に対する感謝の気持ちも味わわせることができるということを学びました。

◎二学期に自校でも立つ鳥運動としてトイレ掃除をする予定です。リーダーから指導いただいた道具の使い方や手順、雑巾の絞り方など、要点を忘れずに子どもたちへ伝えていきたいです。

◎リーダー、サブリーダーや掃除にくわしい方がいて分からないことはすぐ聞けて、安心してトイレ掃除ができました。小中学生がいたのでその子たちの頑張りを目の当たりにできたこともうれしいことでした。

◎以前県立立高校に勤務していたとき、素手で便器を洗う指導を毎日やっていました。生徒は奇声を上げて掃除しますが、一週間も経たずに黙々と作業するようになります。教員がやつて見せることが大切だと思ひます。毎日やつているとまったく汚れが溜まりません。継続も大切だと思ひます。

◎今、トイレ掃除を担当しているので、学んだことを現場に活かせるようにしたいです。また、リーダーが積極的に指導して下さったので、とてもスムーズにできました。私も児童をリードできるように頑張りたいです。

◎触ることもためらいがありましたが、始めると抵抗がなくなり、便器を覗き込んで汚れを探す自分がいま

した。あつという間の2時間でした。この心の変化を子どもと分かちあいたい気持ちでいっぱいです。

【質問】子どもたちと同じような掃除をする場合、衛生面などで保護者の理解が必要でしょうか？学校現場で導入する場合、心がけておくことを教えてください。

【回答】この掃除は平成五年から始まって、二十年ほど経っています。素手で便器を磨いても病気に罹った人はいません。ただし、不安を持たれないように細心の注意を払い、擦り傷でも掃除に参加させないこと。また、保護クリーム（プロテクトX）を塗った上、子どもには必ずビニール手袋を着用させます。終了後は石鹸で手洗い、消毒をします。親には保護者会などの機会に話す程度で、子どもを通じて理解を求めることにしています。

課題

◎（さつま川内掃除に学ぶ会）リーダー、サブリーダーさんが大変勉強されていて一所懸命指導されていることに感動しました。参加された先生や一般の方子どもさんたちが主役となつて、掃除できるように声をかけていたこと、また、参加者の疑問や質問に丁寧に対応されていたことはとてもよかったです。はじめのミーティングで各自小さな目標を持たせ、動機付けされていたことは大変よいことです。



今後の課題として、
①時間を意識し続けること
②道具の特性を知り、それを活かす工夫を考へること

③一人一人の班員の動きを常に意識し、助言すること
○（サブリーダー）全体の流れとともに掃除の手順並びに道具の使い方が十分に分かっていない自分に気づきました。班全体を動かして、一人ひとりのやる気を引き出すには、全体の流れを把握しておくことが大切だと思いました。この反省を踏まえて次回に望みたいです。

○ここで学んだことを現場でどう活かしていくかを考えることが一人ひとりの宿題のようです。感動して工夫して、行動を起こしていきたいと思います。



○（サブリーダー）日頃の仕事に時間を追われ、忙しいという思いだけの日常生活に、自分を見つめ直したくて参加しました。サブリーダーとしてまだ勉強が足りないという痛感しました。今年の自分のテーマは「考動」（考えて行動する）です。トイレ掃除にも積極的に取り組んで

自分磨きをしていきたいです。

○きれいに見える所でもほこりがたまっていたり、汚れたりしていることに気づく力、それをきれいにしようと思う心を持つて、現場で声をかけていきたいです。

○トイレだけに限らず、教室廊下などの研修会もあればいいなと感じました。

編集後記

○リーダーをしてよかった！

最初のあいさつのとき、照れて一言も言えなかった小学生の男の子がいました。恐る恐る小使器に近づいていました。金属部分が輝きだし「顔が写っているよ」と声をかけると左手が便器にかかりました。一層便器との距離が近づきました。「左手がついたね、力が入りだしたね」と声をかけると後は一気に作業が流れていきました。終りのあいさつのとき「きれいになってよかった」と小さな声で言い、笑顔がでていました。それを見た私の心もすっきりしました。

今回の研修会は、全ての班のリーダー・サブリーダーに、初めて福岡便教会の世話人をあてました。掃除後の

感想文には「リーダー、サブリーダーさんが大変勉強されていて、一所懸命指導されていることに感動しました。」とか「リーダーさんの謙虚な姿でみんなの意欲を引き上げる様子などを学ぶことができました。」と好評をいただきました。このような評価をいただいたのは、各地の掃除に学ぶ会の皆様のご指導の賜物であると感謝感謝です。もうひとつは「三研修会」の成果が少しだけ出てきたかなと嬉しく思っています。

三研修会開催について

教師はこの研修会で学んだ掃除技術と哲学を学校で子どもたちに教え、広めていく役割を担っています。そこで、本年度から全ての教師にリーダーとしての指導力を身につけてほしいと願い、教師を対象にした三研修会を開催することにしました。

この会では掃除のノウハウも哲学も基礎から研修します。世話人はもとより経験の浅い方も対象です。研修テーマや内容は世話人が順番で当番となり、一切を取り仕切ることにしました。開催月は五月、八月、十一月と翌年二月にしました。対象者は本会の世話人と便教会の掃除の経験が浅い教師です。

三研修会で、定例研修会のリーダーとなる教師が育つと共に、どの学校でもいつでも自前で掃除研修会ができるようになることを念願しています。

訂正 福岡便教会だより第十一号の1ページ「感動感謝について、鍵山秀三郎先生の教えの出版が間違っていました。正しくは「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」鍵山秀三郎著 亀井民治編 PHP研究所発行でした。お詫び申し上げます。

次回 福岡便教会開催のお知らせ
第十三回定例研修会は、八月二十五日（日）午前八時三十分～十二時、福岡市立福岡中学校で開催します。

第十四回定例研修会は、十月十九日（土）に、福岡市立平尾小学校で予定しています。参加をお待ちしています。

発行責任者 十時 宏徳

粕屋郡篠栗町大字篠栗四六五五一

電話092・947・1108